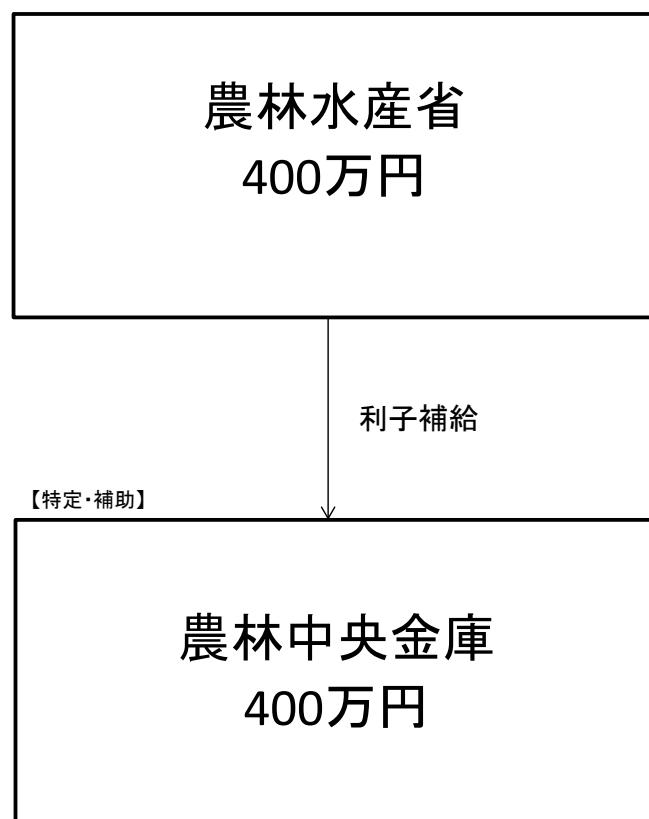


平成24年行政事業レビューシート (農林水産省)							
事業名	農業近代化資金利子補給金		担当部局庁	経営局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和41年度～未定		担当課室	金融調整課	金融調整課長 村井 正親		
会計区分	一般会計		施策名	⑤ 意欲ある多様な農業者による農業経営の推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	農業近代化資金融通法第3条		関係する計 画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	経営意欲のある農業者等の農業経営の改善に必要な資金の円滑な融通を通じ、意欲ある農業者等の経営改善を支援する。						
事業概要 (5程度以 内。別添可)	原則として都道府県段階では対応できない事業区域が広域で大規模な資金需要に対し、農業者等の資金調達を円滑にするため、農林中央金庫が農業者等に対し施設整備等のための資金(農業近代化資金)を低利で融通できるよう、国が農林中央金庫に、利子補給を行う。 (融資枠 3,000百万円(24年度)) 補給率: 定率						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度		
	当初予算	8	11	11	6		
	補正予算	△ 4	△ 6	△ 7	0		
	繰越し等	0	0	0	0		
	計	5	5	4	6		
	執行額	4	5	4			
執行率 (%)	88%	98%	95%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度		
	・農業総産出額に対する日本政策金融公庫資金(農業者向け)の貸付残高指數(12%を目安として維持) ・設定した融資枠30億円を目安として、意欲ある農業者の資金調達の円滑化を目指す。 ※下段()書きは年度目標値、上段は年度実績値		成果実績 指標 (目標値) (%) 融資実績 (融資枠) (億円)	13.1 (12) 4 (30)	13.4 (12) 0 (30)	13.6 (12) 0.1 (30)	目標値 (年度)
			達成度 %	109 13	112 0	113 0.3	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度		
	融資残高		活動実績 [融資残 高] (当初見込 み)	融資残高 (億円)	13.2 (-)	14.5 (-)	11.1 (-)
単位当たり コスト	23年度 293(千円/件) 22年度 358(千円/件) 21年度 272(千円/件)		算出根拠	23年度 利子補給金実績(3,520千円) ÷ 融資残高件数(12件) 22年度 利子補給金実績(4,658千円) ÷ 融資残高件数(13件) 21年度 利子補給金実績(4,081千円) ÷ 融資残高件数(15件)			
平成 24・ 25 年度 予算 内訳	費 目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	利子補給金	6	6	利子補給率の見直しによる減			
	計	6	6				

事業所管部局による点検							
	評価	項目	評価に関する説明				
目的状況・予算の 実績	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。					
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。					
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。					
資金の流れ、費目・使途	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。					
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。					
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<p>【成果目標の達成度が「△」の理由】 融資枠は融資可能な上限であるため、上限を超えてしまうことがないように運用している。また、本事業は都道府県段階で対応できない資金需要が生じた場合に対応するための補完的な役割を担うものであることから、活動実績が見込みから乖離することがある。</p> <p>【融資と補助の比較】 融資は補助金に比べて少ない財政支出で効果を発揮しうる政策手法として位置付けられる。</p> <p>【活動実績の評価が「－」の理由】 貸出金残高は、経済状況等に応じて変動する農業者の資金需要に左右されるため、予め予測することは困難である。</p>				
	△	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。					
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。					
	－	※類似事業名とその所管部局・府省名					
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					
点検結果	<p>農業経営は天候不順等による影響を受けやすく、投資の回収にも長期間を要するなどの特殊性があることから、農業者が資金調達を円滑に行うため制度融資が必要である。「補助から融資」という流れの中、制度融資の維持を図るために、農林中金による低利融資のための利子補給金については、引き続き予算措置が必要。 一方、都道府県段階で対応できない資金需要が生じた場合に対応するための補完的な役割を担うものであり、資金需要が見込みから乖離することがあるため、予算要求・執行に当たり、資金需要を隨時見直すこととしたい。</p>						
予算監視・効率化チームの所見							
抜本的改善	<p>本事業は成果目標としている当年度の融資額が目標をかなり下回っており、事業の見直しを念頭に置いて、より効果的な支援方法を考える必要がある。また、成果指標についても融資した後の成功に対する評価の視点がない。以上のことから「成果目標達成のための事業内容の見直し」、「成果指標の見直し」を行うべきであり、本事業としては「抜本的改善」とする。</p>						
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)							
縮減	<p>本事業は、都道府県段階で対応できない資金需要が生じた場合に対応するための補完的な役割を担うものであり、経済状況等に応じて変動する資金需要に適切に応えられるように融資枠（融資目標）を設定しているが、平成25年度要求については、利子補給率の見直しにより、要求額を削減している。 また、成果指標については、当該融資による農業経営の改善効果を示すことができる指標とする方向で検討することとしている。</p>						
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年行政事業レビュー	0211	平成23年行政事業レビュー	0153				

※平成23年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)



農業者等が農林中央金庫に支払う利息の支払う利息の
一部に充当する(金利負担を軽減)。

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	農林中央金庫	都道府県段階で対応できない農業近代化資金に係る資金需要について円滑な資金の融通	4	—	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					